

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センターつくし学園		公表日	2026年 3月 31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		事業所指定基準を遵守し安全かつ質の高い支援を提供できるような環境整備に努めている。クラス活動により使用する場所が重ならないように工夫したり、遊戯室の仕切りを活用して活動を展開している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準に基づいた職員以上に配置を行っている。	子どもたちの安全を最優先に考え、必要な職員体制について必要に応じ見直します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内の掲示物を最小限にし、写真や文字でスケジュールを伝えるなど過ごしやすい環境調整を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		クラス単位での活動の流れを共有し、活動内容によっては広い空間を確保して取り組むことができるようにしている。また日々、玩具や備品の消毒及び掃除を行い、清潔を保てるようにしている。	清掃専属職員を配置し、丁寧な清掃、消毒を徹底します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		ほしの部屋、医務室なども有効に活用し子どもの状況に合わせて部屋を移動したり、教室の中でも落ち着け場所を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		終礼、朝礼、クラス会議、職員会、運営ミーティングなど情報交換できる場を設けている。	PDCAサイクルを常に意識し、毎日のミーティングやクラス会議、職員会議などを有効に活用し実施していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者参加の行事については、終了後アンケートを実施し、プログラムの見直しに努めている。	アンケートに限らず、日々の送迎時、おしゃべりカフェなどで職員が積極的にコミュニケーションを取り、保護者の皆さんの意向を聞き取るよう心がけます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員同士の信頼関係に努め、風通しの良い職場環境に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は行っていないが、今後、必要に応じて実施を検討する。	法人の理事会、評議員会では事業の実施状況等を定期的に報告します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		県主催の専門研修に積極的に参加したり、研修スタッフとして参加することにより質の向上を図っている。また法人全体で開催する職員研修会(年9回)があり積極的に参加している。	今後も研修の機会を積極的に確保していきます。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムをホームページにて公表する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		管理者、児童発達支援管理責任者、療育担当職員、相談支援専門員により定期的アセスメントを行い、個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		管理者、児童発達支援管理責任者、療育担当職員、相談支援専門員により定期的アセスメントを行い、個別支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画に基づいてプログラムを組んで支援を行っている。また個人記録票も児童発達支援計画に基づいて実施している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		その時々状況に応じてアセスメントツールを活用しているが、園として定まったアセスメントツールを使用していない。	今年度実地指導でも口頭指摘された内容も含め、職員の知識や技術などにより差異が出ないようなアセスメントツールを今後使用していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインを全職員に配布し、熟読するようにしている。	今後も児童発達ガイドラインを職員自身が自らの職務を振り返るためのツールとして活用していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		クラスミーティング、運営ミーティング、職員会議を通じて実施している。	クラス単位の活動も、園全体での活動も担当者が立案し、様々な協議の場を経て行うことで、より子どもたちの興味関心を持つことができる内容とします。

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	クラスミーティング、運営ミーティング、職員会議を通じて実施している。	クラス単位の活動も、園全体での活動も担当者が立案し、様々な協議の場を経て行うことで、より子どもたちの興味関心を持つことができる内容とします。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	子どもたち一人ひとりに応じた個別活動、集団活動を組み合わせている。	ライフステージへの対応、ご家族の思いを受け止めた集団活動(行事)を展開していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	必ず毎朝、朝礼を行い支援内容、プログラム内容等の確認を行っている。	その日の支援内容等をホワイトボードに書き出すなどして、全ての職員に情報が行き届くようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎夕、終礼を行い支援の振り返りや、保護者の思いの共有、プログラム内容の反省などを行っている。	終礼の内容を記録し、参加できなかった職員が内容を確認できるようにしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	だれが読んでもわかるような記録作成を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	モニタリング結果や支援計画の見直しをさくらんぼ教室にて保護者と共有している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	サービス担当者会議の必要性を意識し、参加できるように時間調整を依頼している。	保育園等に併行通園している場合は、通園先と合同で会議を行い、支援の共有化を図ります。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	新川自立支援協議会児童部会の幹事として、関係機関と積極的な連携を図っている。	「保育士さんたちの勉強会」を定期的に開催し、地域の保育士等との連携して取り組む体制づくりを進めます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	地域の保育園との併行通園に向けた支援を行っている。また保護者、併行通園先の保育園、保健師などとの定期的な支援会議を行い、個別支援計画の見直しを行っている。	今後も積極的に連携を図ります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保護者の同意を得て文書による情報共有はもちろん、学校等へ出向き環境を確認したうえでの情報共有を行ったり、同じ場面を見ての情報交換を行うため、先生方へ来ていただいている。	今後も積極的に連携を図ります。
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	新川地域自立支援協議会へ積極的に参加している。	社会福祉協議会の強みを活かした地域支援体制の整備を図ります。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	職員の外部研修参加に積極的に努めている。併せて県主催研修に職員が研修運営スタッフとして協力することも進めている。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	新川地域自立支援協議会児童部会の幹事である。	児童発達支援センターとして、自立支援協議会を活用した地域課題の解決に努めます。
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	地域の保育園との併行通園に向けた支援を行っている。また児童センターでの療育活動を通じ地域の子どもと関わる機会を設けている。	新園舎の機能を活用し、同年代の子どもたちと交流できる機会を確保します。
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎日の連絡帳、送迎時の情報交換は重要であると考えている。	いつでも、気軽に相談できる体制を整えるため、保護者の皆さんとの積極的なコミュニケーションに努めます。
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	おしゃべりカフェ(子育て勉強会)を定期的に行っている。	
	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	入園説明会、契約時に説明を行っている。	
35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	モニタリング時に、子ども、保護者に対して意向を確認し、個別支援計画に記載している。		
36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	保護者の方の面談しやすい日時を調整したり、ご両親の参加しやすい日の調整をしたりして、書面だけでなく、面談による内容の確認を行い、同意を得ている。		
37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の方の変化を感じた場合は、保護者の方の負担にならず、思いを共有できるようにする。		

保護者への説明等	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		すぎなの会の活動に積極的に支援を行っている。夏休み期間中に「きょうだいの会」、「家族交流イベント」を開催している。	
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		定期的な保護者との面談(さくらんぼ教室)以外にも、必要に応じさくらんぼ教室を開催している。	
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		園だよりは子どもたちの活動の様子を紹介するとともに、つくし学園の支援内容についても理解していただけるような紙面づくりを行っている。	より魅力的な広報誌づくりを意識していきます。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報保護に関する説明を行い、同意を得ている。	
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳を活用し、家庭との連携を図っている。	
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		運動会、卒園式など園行事には地域住民を招待している。また地域主催のイベント(夏祭り、文化祭)に職員が協力したり、家族で参加するなどの交流がある。	地域との関係をさらに強く、地域に愛される施設運営を目指します。
非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月、避難訓練を行っている。また、不審者対応訓練、送迎用バスの非常訓練などを行っている。	年間スケジュールを立てて、確実に訓練を実施していきます。
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を作成し定期的な見直しを実施する。	法人全体でBCPへの取り組みを高めていきます。
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬がある場合は、その内容を「与薬願い」により記載していただき、確実な与薬に努めている。	
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのある園児は毎年1回、医師によるアレルギー対応調査票を提出してもらっている。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成した安全計画に基づいて、研修や訓練を実施し、安全管理が十分にされた中で支援を行っている。	
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画書を玄関に掲示し周知している。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員がヒヤリハットへの記入をしやすくするために声掛けしている。	ヒヤリハット事例を出し合い、職員全員で解決策を共有していけるよう、検討できる場を設けます。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人全体で虐待防止委員会を開催し、研修内容等を協議している。	
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		法人内で身体拘束適正化委員会を整備している。支援における椅子の工夫などについては保護者に了解を得ている。		